

平成 30 年度下関市立病院新改革プラン評価委員会議事【概要】

平成 30 年 7 月 30 日（月）13 時 30 分～14 時 25 分

下関市立唐戸保健センター 多目的ルーム

下関市立病院新改革プラン評価委員会

：上野委員長、伊藤(修二)委員、杉浦委員、梶山委員、伊藤(ひろ子)委員

下関市保健部

：福本部長、徳王丸部次長

（豊田中央病院事務局）倉本事務局長ほか 1 名

（地域医療課）八角課長ほか 3 名

1. 開 会

2. 下関市保健部長あいさつ

3. 委員紹介、事務局紹介

4. 議 事

（1）下関市立病院新改革プラン点検・評価書（案）について

- ・下関市立病院新改革プラン点検・評価書（案）

《地域医療課より、概要説明》

（2）豊田中央病院の実施状況について

- ・豊田中央病院 実施状況
- ・実施状況に関する意見（事前受付）に対する回答等

《豊田中央病院事務局より、概要説明》

= 質疑応答・意見等 =

豊田中央病院は住民にとってどういう存在なのか

評価委員会

救急搬送や手術等について、今まで豊田中央病院で診ることが出来ず、済生会下関総合病院や関門医療センターに行くことが多かったが、豊田中央病院でも診ることが出来ることが増えたと感じる。

何かあっても、豊田中央病院で診てもらえるという安心感がある。

ただ、胃カメラ以外にも、内視鏡や大腸ファイバーでの治療等が出来ることを住民はあまり知らない。

以前は待ち時間が 2 時間ぐらい掛かったが、今は物凄く早く診てもらえるようになった。

更に、リハビリ施設が出来たことで、評判は良い。

地域で豊田中央病院のことは気にかけている。

今後も豊田町で人口が増えるということは望めないが、外に行く患者さんを豊田中央病院に引き留めるという努力が必要と思う。

数値目標について

評価委員会

病院の評価は良くなっていると感じるが、数値目標では半分ぐらいが×（達成できなかった）という結果になっている。

色々と努力されているのに、医師が一人減るだけで数値目標を達成できないというのは、評価としてどうなのか。

細かい積み重ねを評価できるといいと思う。

経営改善について

評価委員会

なかなか急激に経営が良くなるということは望めないが、地域にとって大事な医療機関であり、地道に努力していくしかないと思う。

診療単価の改善の1つとして、指導管理料・加算等算定可能なものを確実に算定すること。

そのためには、コ・メディカルたちで話し合っ、仕事の手順を決めることが必要である。

そういう話し合いをする中で、チームの和が取れ、実際に増収した結果が出ると、職員のやる気が出る。

豊田中央病院

加算については、昨年6月から認知症ケア加算を、12月から退院支援加算が算定できるようになった。

また、今年9月頃からは医療安全管理加算や入院時支援加算の算定が可能となる。

地域包括ケア病棟について

評価委員会 地域包括ケア病床を 12 床やっており、診療単価が少し上がったようだが、病床をもう少し増やしたら増収できるのではないか。

豊田中央病院 もともと 8 床で始めたものの男女別部屋になっており、男性部屋に空きがあって、女性部屋が満床ということもあるため、女性部屋 2 つで 8 床にして、男性部屋を 4 床にするなどの運用をするため、12 床にした。今はこういうことを試行錯誤しているところである。対象の方が増えてくれば、また増やしていくこともあると思う。

単価については、一般病床は 13,320 円だが、地域包括ケア病床は包括診療になっており 25,580 円となっている。

温泉治療について

評価委員会 豊田中央病院敷地内にあった「すこやか温泉」の泉源を利用した温泉治療については保険診療が認められていないとのことだが、治療での活用はできないのか。

温泉ということで、人が来るかも知れない。

(3) その他

- ・今後の流れについて
《事務局より説明》

5. 閉 会